洋上アルプス

NO.209

平成２４年８月５日
林野庁屋久島森林環境保全センター発行
鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333
ホームページアドレス http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/syoukai/hozentop2.html

平成二四年度 世界遺産地域科学委員会の開催

今回の科学委員会（七月二一日開催）では、「屋久島における山岳部の適正利用のあり方」が議事のテーマとなりました。当日は午前の時間を割いて、早朝の縄文杉登山ルートの混雑状況について、希望された委員の方に荒川登山口から小杉谷周辺までの現地を直接訪問していただきました。夏休み最初の土曜日にもかかわらず、ＧＷ等の混雑時とは異なり、比較的空いている登山客の様子であったため、スムーズな人の流れであったのは予想外でした。午後からは、会場を文化村センターに移し、科学委員会の審議が行われました。

委員による現地確認の様子

会議ではまずはじめに、ヤクシカＷＧの検討状況について概要説明があり、その後、委員から、次のようないくつかの意見が出されました。南部地域では希少ランの最大の群生地が、最近のシカ食害により昔の面影はなくなり、残りわずかな個体数となり絶滅の危機にある。ここは、生息密度が少なく影響は少ないと考えていたが、早急な個体数調整が望まれる。また、国有林での捕獲の内、特に宮之浦川の国有林での捕獲は、多数が捕獲されているが、未だ減ってない。この地域での減少傾向が見えれば、今後の指標となるのではないか。このほか、シャープシューティングの問題、中央部での捕獲の困難性が指摘されました。さらに国有林内の林道利用による捕獲が可能となれば相当の効果が上がるとの意見に対し、入林者がいず、事業を行っていないなど安全確保が図れるとの前提で、民有林境での国有林内での捕獲について現在調整・検討中との報告がありました。現在、国有林内での捕獲が、林野庁のみの捕獲にとどまっており、特定鳥獣保護管理計画目標の実現のためにも、今後は関係機関の予算措置を含む連携した取組が課題となります。

科学委員会会場

続いて、関係行政機関が実施するモニタリング調査の概要の説明があった後、本日の科学委員会の本題「山岳部の適正利用のあり方」について意見交換が行われました。

はじめに、九州森林管理局、環境省、鹿児島県、屋久島町からこれまでの山岳部利用に関わって、利用者数の推移、登山道荒廃状況、し尿処理実態、保全募金の収支状況、山岳部利用対策にかかる経緯の説明、県からは環境文化村構想に合わせて、特に観光利用とオーバーユース問題について、生態的収容力と利用体験的収容力の観点から現状分析した見方が紹介されました。

科学委員会としての関与のあり方は、①現状認識②現状放置した場合の将来像を描く③複数の対策を立て仮説を立てた上で、対策のコンセンサスを得ることが重要との認識が示されました。利用調整の問題は、住民や関係者の議論の不足があるとされ、オーバーユースに関して生態学的アプローチだけでなく、社会的・経済的観点からの将来を見据えた情報分析が必要であるとし、その上で、順応的管理を行っていくことが望ましいとの意見が出されました。

屋久島生態系モニタリング

屋久島西部の植生垂直分布調査（平成２１年度調査）

****標高1000mプロットの植生**

本プロットの局所地形は、山腹上部の緩い尾根から東側の凹部にかけての平衡斜面で、平均斜面方位は南向き。付近にはイスノキとアカガシの大径木が多いが、スギは見られない。しかし斜面を50～60m登るとスギ大径木の群落が出現し、その群落内にはヒノキやツガの大径木も混在している。**[高木層]**イスノキが多く、イヌガシ・アカガシが混生。個体数は少ないがシキミ・クロバイ・サカキが出現。**[亜高木層]**イヌガシ・シキミ・サクラツツジが多く、ヒサカキ・ヤブツバキ・クロバイ・オニクロキ・マテバシイ・バリバリノキ等が混生。**[低木層]**ハイノキが最多、イヌガシ・シキミ・サクラツツジ・サザンカの個体数も比較的多い。サカキ・クロバイ・ウラジロガシ・バリバリノキの幼木も生育。**[草本層]**オニクロキ・センリョウ・アリドオシ・イヌガシが多い。ヒサカキ・コバノイシカグマ・ホソバコケシノブ・マメヅタ・ホコザキベニシダ・コウヤコケシノブは小プロットすべてに出現。個体数は少ないがヒメハシゴシダ・ヒメツルアリドオシ・シシランも出現。**[群集および特徴的な出現樹種]**イスノキーハイノキ群集と認められる。標徴種はヤマグルマ・オニクロキ。**[前回(平成16年度)との比較]**亜高木層の優占種がヒサカキからイヌガシに変化。高木層優占種のイスノキと低木層優占種のハイノキの成長が旺盛で、いずれも植被率が増加。詳細にみると、前回亜高木層の優占種だったヒサカキが高木層のイスノキの被圧を受け衰退しつつある。また、前回亜高木層だったイスノキ・イヌガシ・クロバイなどの一部が高木層に成長し、前回低木層だったアカガシが１本、亜高木層へと移行。前回草本層だったイヌガシ・シキミ・サクラツツジなどの一部が、高木層のイスノキの成長に伴う被圧により枯死。

屋久島の植物

カイコウズ
（マメ科）

南米原産の落葉低木～小高木。カイコウズ（海紅豆）またはアメリカデイゴ。葉は三出複葉で小葉は卵状楕円形。総状花序は上向きか下向きで、旗弁は丸みがあって大きい。クスノキと共に鹿児島県の木に指定。花期六～九月。

農林水産省公報誌「ａｆｆ」取材で来島

「ａｆｆ（あふ）」は、消費者、農林水産業関係者と農林水産省を結ぶビジュアル・広報誌です。この度、八月号の特集として林野庁が世界自然遺産を守る取組について特集する企画があり、四つの自然遺産地域の紹介とともに、九州森林管理局が所管する自然遺産地域屋久島にて現地取材が行われました。当日は、ＧＳＳ（グリーンサポートスタッフ）二名による淀川登山口～宮之浦岳コースの巡視活動に同行し、遺産地域保全管理の取組の一端を取材していただきました。

倒木処理の様子を取材

お出かけ講座

七月十一日に小瀬田小学校の五・六年生十六名を対象に水産業と森林の関係や自然災害から家屋や田畑等を守る治山事業について森林教室を行いました。

森林教室では、「森林の役割」や「水産業と森林の関係」について、前年度に小瀬田小学校の児童が植樹祭で植えた木々の役割をまじえて講話すると、子供達も、とても熱心に聞き入っていました。

また、治山事業については、実際の治山工事施工箇所にいき、治山事業の目的である山崩れ等から森林復旧に至るまでの処置の仕方、雨量の違いによる雨の降り方の実験、コンクリートの必要性等について現物を使いながらの講義を行い、日本一雨が多い屋久島での治山工事の必要性を、興味深そうに聞いていました。

これからも、屋久島の自然や環境に興味をもっていろいろなことを学んでいってほしいと願いながら、今回の森林教室を終えました。

治山工事施工箇所にて。

白谷雲水峡で清掃ボランティア活動

自然休養林（白谷雲水峡）で七月十四日、二六日に歩道の清掃ボランティア活動が実施されました。

一四日は㈱伊藤園十一名と公益財団法人屋久島環境文化財団四名が参加。また、二六日は屋久島ライオンズクラブ八名とオーストラリアのキャンベラ市ベルコネンライオンズクラブ三名が参加しました。

両日の清掃は、弥生杉コースの木道と手摺りの苔落としに、暑いなか、ブラシとタワシで磨く作業を額に汗しながら熱心に活動していただきました。

参加者の皆さんも木道本来の木目がよみがえり、安全・快適に散策できる成果に満足していました。参加者の皆さんに感謝申し上げます。

↑㈱伊藤園と屋久島環境文化財団のみなさん

↓屋久島ライオンズクラブとオーストラリアのベルコネンライオンズクラブのみなさん

「屋久島レクリエーションの森」作文募集

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、本年３月１６日霧島屋久国立公園から分離し、「屋久島国立公園」が誕生したことを記念して、自然休養林（白谷雲水峡・ヤクスギランド）、風景林（大川の滝・千尋の滝・田代ヶ浜）に親しみ、郷土の自然、森林の大切さを認識してもらうとともに、レクリエーションの森の普及啓発を行うため、屋久島町内の小中学生を対象に作文を募集します。

- 対象：屋久島町内の小中学生
  - 小学１・２年生…210字詰原稿用紙２～３枚
  - 小学３～６年生…400字詰原稿用紙２～３枚
  - 中学生……400字詰原稿用紙３～４枚
- 募集期間：９月３日～１０月１日
- 提出場所：各学校

なお、応募作品は町内施設で展示するとともに、優秀な作品には賞を授与します。

※問い合わせ先
屋久島レクリエーションの森保護管理協議会事務局
℡(0997)４２－３５０８

「ヤクシカ好き嫌い植物図鑑」WEB版を作成

洋上アルプス二〇五号(四月五日号)でお知らせした「ヤクシカ好き嫌い植物図鑑」をWEB版として、掲載しました（左記アドレス参照）。本体は、解説編と図鑑編で二七〇ページにもなりますので、全てを載せることはできません。そのエキス部分としてヤクシカが「食べる植物と食べない植物」のリスト、「好きな植物と嫌いな植物」のリスト。さらに、ヤクシカが、屋久島の生態系や環境に及ぼしている影響等について解説したほか、植物のシカ食害防衛策について文献の引用を交えて、屋久島のシカと植物における事例に当てはめて紹介しています。シカの食性には柔軟性があり、固定的に捉えられませんが、ある程度参考になると思います。ヤクシカの生態や植生に与える影響の一端を知ることを通して、屋久島の生態系や自然について、考えるきっかけになれば幸いです。

ヤクシカ好き嫌い植物リスト

ヤクシカ好き嫌い植物リスト				
シダ、草本、木本別	種名	好き嫌い別	備考	出典
シダ	アツイタ	好き		★
シダ	イノデ(PDF:163KB)	好き		1
シダ	ウスバクジャク(PDF:197KB)	好き		3
シダ	オオイワヒトデ(PDF:279KB)	好き		12
シダ	オオタニワタリ(PDF:275KB)	好き	シカ低密度地域の南部で採餌痕を確認、沖縄では山菜利用。	4,★
シダ	キノボリシダ(PDF:263KB)	好き		15
シダ	シロヤマシダ類(PDF:340KB)	好き		3,12,15
シダ	ゼンマイ(PDF:250KB)	好き		1

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima/yakusikasukikiraisyokubutu.html

屋久島の野鳥

《大海原の狩人「カツオドリ」》

海に囲まれた屋久島ですが、カモメやウミガモ類の主たる分布域からは外れているため、「海鳥」としてはカツオドリやオオミズナギドリが馴染みのある鳥達です。

カツオドリは赤道周辺の暖かい海域に留鳥として分布し、日本では九州南部～南西諸島にかけて多くみられます。

本来外洋性の鳥ですが、海岸線へも飛んでくることがあり、釣りをしている時などしばしば見かけます。また、フェリーに乗って沖合に出ると、カツオドリが船と併走して飛んでくれることがあります。こういった時は、近くでじっくり観察することが可能であり、船に驚いて水面から飛び出したトビウオを狙って、カツオドリが急降下する姿を目撃できるかもしれません。

写真：口永良部島行きのフェリーにて。